

# 市民協働事業 相互評価シート

## 1 市民協働事業の概要

事業名称	令和6年度にしく市民活動支援センター運営事業	
事業の実施者	団体等	特定非営利活動法人市民セクターよこはま
	行政	西区役所 地域振興課
事業の目的	市民公益活動、生涯学習活動及びボランティア活動の支援を通して、市民の理解と参画のもとに、区民力の向上による豊かな地域づくりを図ること。	
事業の内容	市民公益活動に関する相談対応、情報提供・発信、活動の場（轻易な打合せスペース等）の提供、地域人材ボランティアバンク事業に関すること、区民利用施設等との連携による活動支援や団体運営の支援など	
役割及び責任分担等	次頁のとおり	
実施期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日	

記入日	令和7 年 5 月 27 日
記入者	<p>[団体等]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・団体等名： 特定非営利活動法人 市民セクターよこはま</li> <li>・記入責任者 氏 名： 山田 美智子 連絡先： 045-620-6624</li> </ul> <p>[行政]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部署名： 西区役所地域振興課</li> <li>・記入責任者 地域振興課長 氏 名： 加藤 久雄 連絡先： 045-320-8393</li> </ul>

## 役割及び責任分担等

事業項目	受託者の役割	委託者の役割
にしく市民活動支援センターの管理運営に関すること	1 設備の管理 2 軽微な維持修繕	1 設備の提供 2 設備の管理に関する調整及び協力
にしく市民活動支援センター事業に関すること	1 市民公益活動等のネットワーク化 2 市民公益活動等の相談対応 3 市民公益活動等に関する情報提供・発信 4 市民公益活動等に関する活動の場の提供 5 地域人材ボランティアバンク事業の実施 6 区民利用施設等との連携による活動支援 7 自主企画事業の企画・実施 (1) 地域振興課と連携したワークショップの企画、準備、実施及び成果報告 (2) ワークショップ参加者による団体結成の促進 8 事業全体の工程表の作成・提出 9 その他市民公益活動に関する企画及び実施・活動支援	1 市民公益活動等のネットワーク化についての調整及び協力 2 市民公益活動等の相談対応についての調整及び協力 3 市民公益活動等に関する情報提供・発信についての調整及び協力 4 市民公益活動等に関する活動の場の提供についての調整及び協力 5 地域人材ボランティアバンク事業の実施についての調整及び協力 6 区民利用施設等との連携による活動支援についての調整及び協力 7 自主企画事業の企画・実施についての調整及び協力 8 事業全体の工程についての調整及び協力 9 その他市民公益活動に関する企画及び実施・活動支援についての調整及び協力
運営事業評議会の実施	運営事業評議会の開催	運営事業評議会の開催についての調整及び協力
事業改善に関すること	1 利用者のニーズ把握とサービス向上 2 運営事業団体として必要になる事業の検証 3 横浜市として必要になる事業の検証への協力	1 利用者のニーズ把握とサービス向上についての調整及び協力 2 運営事業団体として必要になる事業の検証への協力 3 横浜市として必要になる事業の検証
その他支援センターの管理運営等にあたり必要となる事務事業に関すること	1 利用統計 2 運営事業団体として必要となる情報公開及び説明責任に関する業務 3 支援センターの管理運営及び市民力の向上等に関する調査研究 4 その他、区が行う市民公益活動等に関する施策・事業への協力	1 利用統計についての調整及び協力 2 横浜市として必要になる情報公開及び説明責任に関する業務 3 支援センターの管理運営及び市民力の向上等に関する調査研究についての調整及び協力 4 横浜市役所内部の連絡調整

## 2 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができたかどうか、相互にチェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行い、その後、「2 事業評価相互検証シート」で総合的な評価検証をおこないます。

### ◎相互チェックシートの評価基準

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	まったくできなかった
A	B	C	D

#### ①事業計画段階

1	自分たちが達成すべき大きな目的やミッションについてよく話し合うことができましたか。	B
2	お互いの立場や組織の違いを話し合ってよく理解することができましたか。	B
3	ニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合って決めることができましたか。	B
4	実現のためにそれが何ができるかを考え、話し合って役割分担を決めることができましたか。	A
5	会計のルール等、お互いの組織内部の取り決めについて、説明し合ってよく理解することができましたか。	A
6	事業を始めることや計画中であることを、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A

#### ②事業実施段階

1	率直な意見交換のもとに、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。	A
2	お互いの強みや得意分野を、どう生かし合えるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。	A
3	相手に任せっきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。	A
4	事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などをふりかえり、修正しながら取り組むことができましたか。	B
5	必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめることができましたか。	B
6	事業終了後の見通しについて、話しながら取り組むことができましたか。	A
7	事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A

#### ③ふりかえり段階

1	協働することで、単独でおこなうのに比べてどのような効果が得られたか、話し合って共有できたか。	A
2	受益者が満足を得られたかどうかについて、話し合って確認することができたか。	B
3	これまで振り返って、お互いの考えに相違点がなかったかについて話し合い、確認する事ができたか。	B
4	期待された事業成果を得られることができたか。	A

### 3 事業評価相互検証シート

事業実施プロセス相互チェックシートでおこなった結果をもとに、相互で本検証シートを作成します。

#### 事業の計画づくり

(協働して事業計画をつくるにあたり、お互いに共有できしたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)

##### 【共有できしたことや認識に違いがあったこと】

<共有できしたこと>

- ・西区今昔かるた体験会・大会等イベントの開催や、同かるたを活用した人材発掘・育成講座の実施について、企画段階からセンターと情報共有を行い、協働で運営することで、より良い事業実施へつなげることができた。

- ・市民局市民協働推進課主催の区民活動支援センター機能強化ワークショップに参加し、アクションプランの作成を通じて、センターの目指す姿や役割について共に検討することができた。

<認識に違いがあったこと>

- ・西区今昔かるたや機能強化ワークショップ以外の各事業・取組において、計画段階では、事業のねらいや協働の効果について十分に検討することができなかつた。

##### 【今後改善が必要と思われること】

- ・区主催事業、センター主催事業ともに、個別の事業において、事業計画策定の段階から双方での話し合いを重ね、相互の強みをどのように活用できるか、協働の効果について議論する余地がある。

#### 事業実施

(協働して事業を実施した結果、お互いに共有できしたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)

##### 【共有できことや認識に違いがあったこと】

<共有できしたこと>

- ・毎月の定例会議を通して、センターの利用者情報や地域活動状況を共有することができた。
- ・実施事業内容を共有することで、相互に方針のアドバイスや広報協力をすることができた。

<認識に違いがあったこと>

- ・機能強化ワークショップを通して、区役所と NPO 法人との協働の強みをより活かしていく余地があることが分かった。

##### 【今後改善が必要と思われること】

- ・引き続き、区役所各課に向けたセンターの周知や事業の情報共有の方法を検討する必要がある。
- ・センターとの関係づくりが出来ていない地域の社会資源等に向けて、区が協働して働きかけるなど、協働と連携の強みを活かす戦略を検討する必要がある。

#### 事業の成果

(協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。)

- ・「西区今昔かるた」を使ったイベントの実施や、センターへの同かるた販売委託、西区制 80 周年記念イベント「重ね押しスタンプラリー」でのセンターへのスタンプ台設置等により、西区への愛着醸成やセンターの PR につなげることができた。

- ・地域でのかるたイベント企画・実施ができる人材の養成を目的として「西区今昔かるた伝道師養成講座」を実施し、実際に地域のかるたイベントへの講座修了生の派遣や、かるたを活用した今後のイベント企画打合せにつなげることができた。

- ・区とセンターが協働で事業を実施する意味を共有しながら事業を進めることができた。
- ・NPO 法人の強みを活かし、柔軟に対応しながら事業や取組を実施し、地域に働きかけることができた。

#### 自由記入欄

- ・年間を通じて、西区制 80 周年記念関連事業等で区とセンターで協働して事業や PR を推進することができた。
- ・定例会に限らず積極的に双方の話し合いの場を設けるなど、お互いの強みが発揮できるよう、より協働で運営する意義を意識しながら効果的な運営を目指す。